

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者：女性 90代 要介護4

利用期間 ：R3年10月入所～退所を繰り返し現在利用中

経 過 ：2019年8月中旬～ 2019年11月中旬まで健育会病院回復期病棟に上行結腸癌、腹腔鏡下回盲部切除術後で入院歴あり。2021年2月に腰痛がありデイケア利用でマッサージを行い一時的に痛みが軽減するも再度痛みが強くなり同2月に外来へ受診、ご本人とご家族よりの強い入院希望があり、痛みの軽減とまた1人暮らしが出来るようになる為のリハビリ目的から病院へ入院、その後施設入所となる。

内 容

ご利用者はR3年10月、トイレ内で転倒し右大腿骨転子部骨折となり、その翌年のR4年1月には居室で転倒し左大腿骨転子部骨折となる。

入所当時は足腰の痛みが強く離床するのも嫌だと話されていました。

手術後施設に再入所しましたが、足の痛みや腰痛が強く見られ1人ではトイレに行く事も出来なくなり移乗は介助、見守り必須という状況でした。

足の痛みや腰痛もあり、ベッド上で過ごされている時間も長く、ご本人から悲観的な発言が毎日の様に聞かれていました。

好きだった外出も出来なくなりストレスからか職員へ不満を話す事も多くありました。

外出したいけどできない…悲観的になっているご利用者の笑顔を取り戻し、希望を叶えたい。そこで、ユニット職員、担当リハビリと安全面を確保しながらご利用者が少しずつ自信を取り戻し出来る事を増やすにはどうしたら良いか考え、何度も意見交換をしました。

始めは「足が痛いから、腰が痛いから」と離床を嫌がる事も多く、食事やトイレ以外はすぐ部屋に戻りベッドで横になる事が多くありましたが、ご家族の励ましのお言葉やスタッフの声掛けがご利用者の励みになり、リハビリも意欲的に行う様になりました。

殆ど寝たきりだったご利用者も今では、腰の痛みや足の痛みは聞かれず、ベッドへの移乗やユニット内の移動は自分で車椅子を自操し安全に移動する事が出来る様になりました。

離床時には進んでタオルたたみをして下さったり、食後のテーブル拭きも行って下さる様になりました。ユニットで仲の良いご利用者もでき、その他ご利用者との関りも増え、移動や日常生活等、自分で出来る事も増えました。希望だった「外出したい」も叶える事ができました。今後もご利用者の笑顔を増やしていきます。